

●今月の表紙●
今月の釣り人は生井澤聰さん。毎号「楽釣宣言」で奮闘してくれているが、この日のフィールドは南部手賀沼の乗込み場。
付近の乗込み場は、時おりガバッ、ガバッと早くも魚の気配。
このムードにやや興奮気味の生井澤さん。
増水後には是非もう一度狙いたい…と。



- 9 **2ヶ月連続特集** 年に一度のお祭りがもうすぐ来る!!
関東乗込み場大集合 PART I
佐原水郷・手賀沼・道仙田を中心
34カ所一挙公開!

- 178 **特集II** 50上に賭けた夢を熱く語る。
そして、印旛新川での実釣では…
club50発足スペシャル。
関東初の巨べらネットワーク集団より
5人の夢追い人が登場。
大いに語り、大いに釣る！

18 名手・石井旭舟がいく、へら鮎出会い旅… へらぶな浪漫街道
《第四回》田貫湖(静岡県)

26 スーパーアングラー小池忠教のエサ合わせ大全
《Vol.4》真冬の横利根川を中通して完全攻略!

34 棚網 久の対決mode 1, 2, 3! 特別編
《Battle.25》スーパーウーマン対決!
吉岡和美 VS 旗手直美

40 大型狙いの楽釣宣言! 山内研作&生井澤聰
《第4回》坂川(千葉県松戸市)&鹿島川(千葉県佐倉市)

国際つり博2003

118 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!?」
《Vol.4》『匠の技』…高橋秀樹のウルトラテク!?
富里乃堰(千葉県富里町) ゲスト:高橋秀樹

122 熱血釣り女・吉川ひとみがいく!「へらってヤバイわっ!!」
《第10回》「筑波湖でロングロッドリベンジ!!」
GUEST:岡田 清 筑波湖(茨城県明野町)

126 杉山達也のSPLASH BEAT II
《Vol.4》友部湯崎湖月例大会。「段底」の明暗!?

132 ★野の風景
間瀬湖(埼玉県)

134 頑固一徹! 自分の釣りを貫き通す男
《今月の釣り人》「江戸川」で美形のへら鮎を狙う 山中永一さん

136 上州屋グループへら鮎用品充実店紹介
《第29回》上州屋キャンベル座間店(神奈川県座間市)

138 竹は生きている
④竹の寿命と竹竿の寿命

140,150 列島縦断 旅するカメラ
《千葉県31》富山村～富浦町 市部セキほか

186 西日本川釣り紀行 北川穂積
《第4回》倉敷川&四番川(岡山县)

190 釣りクラブ見参!
《第43回》チーム絆 真嶋園(千葉県)

192 フィッシングレディ
《今月のレディ》石井陽子さん 加須吉沼(埼玉県加須市)

- 145 **緊急特集!!** ~印旛沼には手軽に狙える乗込み場がいっぱい~
印旛沼の乗込み場を探る

- 158 **黒べゑ提供 お年玉プレゼント 当選者発表**

50 電話で突撃!! 関東近辺釣り場情報

★エリアレポート

54	巨勢の新堀(佐賀県)	河口正伸
56	柴山潟(石川県)	山本一朗
57	小皿池(兵庫県)	前田誠志
58	佐屋川源氏前釣り場(愛知県)	後藤誠

62 ガツツ小林が攻めまくる 若さとファイトの激釣記
《第9回》筑波流源湖(茨城県八千代町)

65 江成公隆のトーナメンター、復活への道。
佐原水郷が生んだ奇才・北城 錦登場!!
《Vol.10》北城 錦の底釣りゼミ④ in中島屋(?)

70 人間力ナビ稻毛利夫の実釣!野べら釣り歩き
《第4回》中川(埼玉県栗橋町)

74 GOZYUKKAMI TREASURE HUNTER アマヤン 天野正由
《その4》相模川本流初心者のためのポイント解説 小倉橋・高田橋・昭和橋付近

80 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》釣便図

85 元気が出るへら鮎 西田美明
《第4回》「へら鮎必釣法」の巻

90 最狂へラ戦士養成所“鮎の穴” 高橋謙司
《第三話》今月の指令:ひとみ娘のサインをゲット〜♥せよ

94 野田幸手園新聞

98 本誌イケイケ編集長が斬る! 業界のタブーに迫る!!
《第4回》どうしたらインストラクターになれるのか?②

102 荘野諒爾 へら鮎釣り 何でも相談室
《第4回》ウキのエサ落ち目盛の決め方は? ほか4質問

106 ワクワク管理釣り場情報

110 小売店情報

151 竹、合成竿を使用した 未開の釣り場 釣行記
《その12》四天木の池(千葉県大網白里町)&宮島公園の池(九十九里町)

156 「ジュニア釣り教室」参加者募集

★へら鮎BOX

161	里ちゃんの新米編集長雑記
162	情報地獄三三
164	ボイス
169	新連載 新人モロちゃん奮闘記
170	わが輩はへら鮎である
171	プレゼント発表
172	釣果予想クイズ

175 広告索引

176 編集後記

※「旅するカメラ番外編」「人物往来」は誌面の都合により休ませていただきます。

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web連動企画! [URL] <http://hesarayokohamatsurumi.net>

まだまだ続く、「北城 錦の底釣り」ゼミ!

今月は、ついに「ドボン」にまでメスが入る…。

実戦で培ってきた説得力200%の北城理論には、

ただただ舌を巻くばかりだ。

ここに並んでいるのは、

江成が何度も何度も北城氏に確認し、

慎重に、熱く、そして、家庭を犠牲にして!? 書き上げた、

魂の文字達だ。

小さな字に負うことなく、

ぜひとも最後まで読み切って頂きたい!!

by 里ちん

佐原水郷が生んだ奇才・北城 錦登場!!

〈Vol.10〉 北城 錦の底釣りゼミ④ in中島屋 (!?)

☆江成の独り言 (里ちん注: 繙ぐと書いたらしい…)

「野釣り場での競技」では、釣り上げる占めるが、その多くは管理釣り場ではあまり問われない要素かもしれない。例え野釣りで重要な要素のひとつに、ポイント選定がある。昔から釣りは「一にポイント」と言われ、「二ニから下は人によつて違つても、格言の「一」は崩れない。魚がいなければ名人でも釣れるのがないから、一番大事だということは誰にでもすぐ分かる。

ここで管理釣り場オブリーの、いわゆるトーナメントー諸氏から苦情が殺到しそうなので予めお断りさせて頂くが、もちろん私はこの格言はスケールの違いこそあれ、管理釣り場にもあてはまると言える。釣り座が自由に選べる例会では、当然釣り座選定は重要な要素になつてくる。また、桟橋に一列に並んだ場合でも、その端と中間では魚影の濃さやフィッシングプレッシャーが違うだろうし、水深や水流さえ違う可能性もある事は重々承知。その上で、管理釣り場には(ほぼ)同一条件下での競技」という前提を期待したい。

特に短時間のトーナメントでは移動不可という場合が多いから、この前提是必不可少だ。しかし私がどんなに力んでみたところで相手は生き物。魚影がすごいとしても、厳密にはあり得ない前提である。それでも参加する競技者達は、「そんな」条件下で競技が行われる事は百も承知の筈だ。意中のポイントに入らなかつた場合、「運」と諦めるか、「与えられた場所でベストを尽くす」のかは競技者次第である。

「へら釣りのプロトーナメント」は実現可能か?という話題になると、「興行的に成功するか否か」という問題以前に、

「釣りの競技性」を疑問視して「不可能」と断ずる人が多い。こういう人達は共通して、「プロとは何か」という話ををする。

「プロにはアマチュアとの圧倒的な実力差が必要」というものである。「プロはアマチュアに負けちゃダメ!」という事だから、「相手が生き物であるため、何が起るか分からない」「運の占める割合が大きい」「ビギナーズラックがある」等の不確定要素が多く過ぎる魚釣りではプロが成立しないという話になるほど思った。

例えば限りなく不確定要素を排除した団碁や将棋と比べれば、釣りはプロとアマチュアの差はそんなに大きくないかも知れない。しかし、不確定要素がありながらプロ化されている競技はいくらでもある。相手が生き物ではないとしても、アウトドアで行われるスポーツでは、多かれ少なかれ自然の影響を受ける。時にはそれが味方し、時には邪魔することもあるだろう。これはつまり「運」という要素にもならないか…。こんな事を私が考えるまでもなく、プロ化された釣りはすでにいくつか存在する。しかもそれらは全て「野釣り」である。「数」を競うへら釣りならば、管理釣り場でトーナメントを行う分には、先行した他のどのジャンルの釣りよりも競技性が高いのではないかと感じる。

いくつかの局面において、「ビギナーズラック」は否定しない。しかし、「ビギナーズラック」でトーナメントを勝ち抜けるのは到底思えないし、過去にビギナがビッグタイトルを手にしたという話は聞いた事がない。トーナメントの優勝者について、スペシャリストかオールラウンドかという話題があつても、ビギナかビテランかという話は聞いた事がないのだ。もしそういうケースがあつたとすれば、それはルールに問題がある。ビギナーズラックで勝てる要素を作為的に取り入れたとしか考えられない。様々な

思惑が働いてそういう事になるのだろうが、結果はどうであれ、「競技性」に対する冒頭であると思う。

「うまい人とたくさん釣る人は違う」とよく言われる。「うまさ」が示すものにも色々あるので微妙な表現ではある。例えば「エサ合わせやセッティング変更のタイミングは抜群なんだけど、なぜか三役入りした事はないんだよねえ」という場合に使われるし、「魚はあまり釣れないけれど、あの人の竿捌きには惚れ惚れるよ」という場合に使われることもあるだろう。しかしどちらかと言えば後者の二コアンスで使われるケースが多いかもしない。

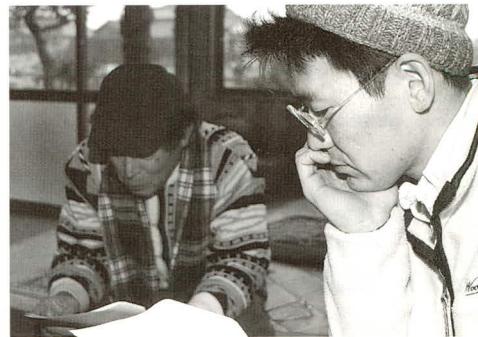
競技嫌いの人が使うケースが多いかもしない。

楽しみ方は人それぞれだが、私は今のところ、「釣る」一人への興味が大きい。「釣る人はいつも釣る」不思議。私はその秘密を知りたいし、負けたくない。だから追いかけたい。この好奇心が私を競技嫌いの人が使うケースが多いかもしない。

もちろん私はそういうレベルではないので、仮にへら釣りがプロ化されても直接は関係ないが、一ファンとして楽しみな事がひとつだけある。「旬な」「本物の」トーナメントーの記事がタイムリーに読めるかもしないということ。プロ化される事で、一気に実力主義の時代になる可能性がある。全ての記事がトーナメントーの記事がタイムリーに読めるかもしないということ。プロ化される事で、一気に実力主義の時代になる可能性がある。全ての記事がトーナメントーの記事がタイムリーに読めるかもしないということ。プロ化される事で、一気に実力主義の時代になる可能性がある。最新テクニックの記事はそういう時代になるだろう。現在、「なぜあの人の記事がないのだろう?」もしくは「なぜこんな扱いなんだろ?」と思う事がしばしばある。年功序列で順番待ちなのかどうかは知らないが、もしそうであれば「専門誌」を買っている読者を馬鹿にしている。読者にはそんな事情は関係ないのだ。

(江成)

北城 錦の底釣りゼミ④



底釣りのバリエーションと 「速い釣り」。

江：今までのお話を聞いていると、ズラシ幅の分類や底釣りのバリエーションをまとめるのは無意味な気もするんですが、そこをあえてまとめて欲しいですね。どうでしょうか？

北：ズラシ幅の分類については、底釣り規定がほぼ無くなつた今、あまり気にななくていいんじゃないのかな。底釣りのバリエーションの分類は、江成君的には「どこまでが底釣りでどこからが宙釣りなのか」って事が気になつてるんでしょう？ これもやはり人によって見解が違うかも知れないけど、あくまでも俺の分類つて事で話そろいか。

底釣りと呼ばれているのは、大別してこの4種類だよね。

- ・完全底釣り
- ・底（い）ら辺釣り（＝落ち込み取り）
- ・段差の底釣り
- ・ドボン（中・外通し）

このうち「完全底釣り」は底釣りを語る上で基準となるんだから、当然底釣りなわけだ（笑）。問題は「底（い）ら辺釣り」だよね。

「底にあるエサを拾うへらを狙う釣り＝底釣り」が定義とすれば、アタリ取りのタイミングで言えば底釣りではないという事になる。よく宇宙の延長とは言われるけど、着底してからのアタリで拾う事もあるわけだから、はつきり宙釣りであるとも言い切れない。「底（い）ら辺」とはよく言ったものだ。でもとりあえず底釣りのバリエーションの中に入れといてあげようよ（笑）。「底（い）ら辺釣り」は野釣りでは結構効くしね。底の状態が悪いからやむを得ずつていうケースは多いけど、そういう理由以前に落と下のエサにしか興味を示さないというか…。底釣りの定義からすればこりゃもう宙だな。でも着底してからのアタリで拾う事もあるので、やつ

ぱり「底（い）ら辺釣り」だと。これについてはちょっと別の見方もしてみたい。

最初に「どのへらをターゲットにするか」って話をしたけど、ひとつに絞るんじゃなくて「どのへらをメインに狙うか」っていう事でもいつもと続けたら穴が空くかもしれないし、ウワズリ過ぎるかもしれない。そこで「待つ」事でリズムの修正をするわけ。ついでに小べらでもいいから釣ればなお良し（笑）。つまりメインとサブとの割合の問題だね。狙う割合で見てもいいし、結果で見てもいいけど、それが「底」と「底（い）ら辺」との境界線だと言つてもいいんじゃないかな。

江：なるほど…。こういう話、大好きです（笑）。

北：管理釣り場ではあまり落ち込み狙いをしない方がいいと思うよ。魚影が濃いのでウキはいくらいでも動くから、いかにも落ち込みで決まりそうに感じるけど、そんなに甘くはない。江成君なんか、いつもこれで自滅してるもんね（笑）。

江：よく見ますね～（汗）。「もっとたくさん釣れる可能性があるのではないか」と、ついついやつてみたくないちゃうんです。

北：いや、別にやるなとは言つてないよ。どんどんやって下さい（笑）。さらに上を目指して試してみる価値はあるはずだから。頃頃から向上心を持って練習するという気持ちは大事だと思つ。結果はやってみなければ分からぬ訳だし。

でも俺は底釣りに関してはカツツケや浅ダナと違い、回転の速さで釣る釣りではないと思つて。あ、のんびり待つて言つてるわけじゃないよ。リズムは大事。そんな事分かつてるとね（笑）、確率を高める釣りであるという認識だつて事が言つたかったの。地合の維持と確實性という事を考えた時、「急がばれ」もあるかないよ。リズムは大事。そんな事分かつてるとね（笑）。確かにアタリで拾う事もあるんだね。管理釣り場なん

やつたらそれは仕方ない（笑）。もちろん後から追っかけるけどさ。それでまくれなくてもしょがないよね、自分のスタイルで入ったんだからさ。一日勝負と短時間勝負でも話は違つてくるかもしれないね。短時間勝負はある意味「賭け」だからね。

江：いやいや、北城さんが落ち込みで狙つてい時つてのはよっぽどの時でしようから、僕なんてかないっこないじゃないですか。

北：そんなに持ち上げてくれなくともいいよ（笑）。

ところで、よく言われるけど「速い釣り」って何だろうね？ いかにも高釣果に結び付きそうなイメージで捉えられているようだけど、実は違うんじゃないかな。アタリの出るタイミングが早い（高い位置）というだけのことであつて、回転数が釣果に比例するというのは都合のいい思い込みだと思うよ。1日の釣果を予想して、その釣果を出すにはどれくらいのベースで釣ればいいのかって事は江成君だって考えるだろうけど、落ち込みの早いアタリで続くとしたら一体何キロ釣れちゃうんだろうねつて話。よ

く激カラをくらつた人が「エサが合えばもっと釣れたのに」って話をするけど、釣らないからアタリが出続けているという可能性もある事を忘れてるね。俺は「サクフ」と呼んでいるけど、ターゲットではないへらを周囲にウロウロさせておくのは大事だよ。野釣りではアタリの出始めはアワセないつて昔の教科書に載つてるので、同じ意味。釣り切っちゃましいんだよ。もちろん逆に、釣らないから寄り過ぎて收拾がつかないというケースもあるだろけどね。（適度に寄せながら釣る）という考え方もあるわけだから。それならなお、慎重に打ち返した方がいいんじゃない？ 必要以上の打ち返しをしない方がいい場合もあるんだね。管理釣り場なんかはこのケースかな。

江：では、北城さんにとっては「速い底釣り」は「ない」わけですね？

北：いや、あるよ。俺にとっての「速い底釣り」は、あくまでも「速攻の完全底釣り」が目標。いかに戻りを早いタイミングで出させるか。ズ

ラシの効果のところで説明したように、これにはズラシ幅が大きく関わってくるわけだ。江..なるほど、よく分かりました。ところで、段差の底釣りについてははどうでしよう?

思議なんです。決まるケースとダメなケースは一般的にこんなふうに言われていると思います。

「段差の底釣り」のメカ。

北..段差の底釣り（以下、段底）はタナボケしにくい見えるけど、決まる池ではダントツになる。そりやそうだ。広角にバラケを撒けるんだから、寄せの効果は普通の底釣り以上だろうし。

江..引っ掛けるのはそこなんですよ。決まらないケースを説明するのは簡単なんです。寄せ工のあるタナと食わせるタナが違うんですから、無理があると思うんです。よく段底の効果を説明する時に、寄せ効果以外の理由として、底より上にいるへらをターゲットに出来るって言われるんですけど、へらがみんなこちらの都合良くバラケる粒子の落ちる先に寄つてくれる訳はないんです。もしそうなら、宙でもウワズリや距離なんて気にする必要はないんですけど、実は底釣りのバリエーションの中でも、僕たちは底釣りだと感じる釣りなんです。

北..違和感か。大片スラシ、下バリトントン。昔からあるズラシのバリエーションの延長にある釣りだと思うんだけどね…。それから、ラケは塊のまま落とすべき。バラケ過ぎちゃダメ。ずっとナンセンスだって言ってきたけど、宙のへらを無理やり底で狙うならおさらだね。

江..ところが「決まる」ケースがあるんですよ。「段底は実は宙釣り」で、下バリは安定のためだけに底につけるのかな…なんて考えた事もあります。でも宙よりは段差をシビアに調整しないので、距離感というものはあまり気にしなくていいのかな、と。そうなると、宙釣りのセットの感覚ではないなあ…なんて。とにかく何で段底がウワズラずに決まるのかが不

薄い池	○
広い池	○ ○ ○ ○ ○
深い池	×
濃い池	×
狭い池	×
古い池	×
新しい池	×

北..そんなの関係ないよ！ 底にある下バリを食つて欲しいんだから、バラケがどこにあろうが「底で口を使うへら」がたくさんいればそれで「底釣り」は成り立つわけですよ？ 江成君もそうだけど、段底はウワズリで決まりにくいって思っている人が多いよね。じゃあ、段底がダメでも完全底釣りなら釣りになるって言うの？ ウワズリの問題だけにしちゃ筋が通らないよ。完全底釣りをしている時だってウワズるんだからね。完全底釣りが成立するなら、段底も成立する。これが俺の実感。

江..ええっ、そなんですか〜！ でも段底でボケて、完全底釣りにしたらよくなつたっていう経験はあるんですけど…。

北..バラケが間違つてたんじゃないの？ 上ハリスの短さを考えれば、本当は完全底釣りよりもアタらないケースが多いね。セット釣り（段差釣り）と捉えると、距離感が合つていてもアタらないケースが多いね。セット釣り（下ハリス）で、底でしか口を使わないへらの問題ないのでは？と思つてしまつても不思議ではないよね。カラシンくらい出たつていいのに、でもダメだと。なぜか？ 答えは簡単。宙釣りじゃないからさ（笑）。段底は「底釣り」なんだってば。「底でしか口を使いたくない（笑）へら」を相手にしてる釣りなんだね。それだけの事。「狙うへら」の問題。「下向くへらを狙

う釣り＝底釣り」だから、基本的には距離感はあまり意識しなくていいんだよ。「食う位置は底」、ともう決まってるんだから「段底」においては、やはり可能性がある（笑）。

江..うーん、でも距離感の問題が残つてますよ。へらにしてみれば別に拡散範囲の中のどの位置で食つたつていいと思うんです。もちろん、その時その時で位置は変わるとして。これはハリスの長さの調整が必要なハズですが、例えばバラケと食わせの距離がほとんどなくてない状態であったとして、下ハリスを詰めた段底では宙ほどシビアにならないですよね？ 例えばバラケと食わせの距離がほとんどなくて新べらと旧べら、密度と警戒心、競争心と工サ馴れ、ストレスとズルさ…。こんな要素が関係あります。つまり、キーワードは「もどかとウワズリにくい状態」って感じるんですが？

北..そんなの関係ないよ！ 底にある下バリを食つて欲しいんだから、バラケがどこにあろうが「底で口を使うへら」がたくさんいればそれで「底釣り」は成り立つわけですよ？ 江成君もそうだけど、段底はウワズリで決まりにくいって思っている人が多いよね。じゃあ、段底がダメでも完全底釣りなら釣りになるって言うの？ ウワズリの問題だけにしちゃ筋が通らないよ。完全底釣りをしている時だってウワズるんだからね。完全底釣りが成立するなら、段底も成立する。これが俺の実感。

江..ええっ、そなんですか〜！ でも段底でボケて、完全底釣りにしたらよくなつたっていう経験はあるんですけど…。

北..バラケが間違つてたんじゃないの？ 上ハリスの短さを考えれば、本当は完全底釣りよりもアタらないケースが多いね。セット釣り（下ハリス）で、底でしか口を使わないへらの問題ないのでは？と思つてしまつても不思議ではないよね。カラシンくらい出たつていいのに、でもダメだと。なぜか？ 答えは簡単。宙釣りじゃないからさ（笑）。段底は「底釣り」なんだってば。「底でしか口を使いたくない（笑）へら」を相手にしてる釣りなんだね。それだけの事。「狙うへら」の問題。「下向くへらを狙

う釣り＝底釣り」だから、基本的には距離感はあまり意識しなくていいんだよ。「食う位置は底」、ともう決まってるんだから「段底」においては、やはり可能性がある（笑）。

江..うーん、でも距離感の問題が残つてますよ。へらにしてみれば別に拡散範囲の中のどの位置で食つたつていいと思うんです。もちろん、その時その時で位置は変わるとして。これはハリスの長さの調整が必要なハズですが、例えばバラケと食わせの距離がほとんどなくてない状態であったとして、下ハリスを詰めた段底では宙ほどシビアにならないですよね？ 例えばバラケと食わせの距離がほとんどなくてない状態であったとして、下ハリスを詰めた段底では宙ほどシビアにならないですよね？ 例えばバラケと食わせの距離がほとんどなくてない状態であったとして、下ハリスを詰めた段底では宙ほどシビアにならないよね

メッセージを押し通し過ぎてはマズいよ。例外なんていぐらでもある筈なんだ。いつでも自分のイメージを捨てられるくらいの気持ちでへらと向き合わない疲れるよ、相手は生き物なんだからさ。頭で考えて弾き出した対応が通じなかつた時に、自分ではありえないと思われるような対応や正反対の対応をしてみる余裕は欲しいよね。

江・はい、頭では分かってるんです。そのくらいの柔軟性がないと、知らない領域へステップアップするためのデータも採れなくなっちゃうんで。でもある程度自信が付いてくると、自分の引き出しだけで勝負しようとしてしまうんですね…。ここが本当に上手になれる人と、イマチ君で終わる人との境界線かもしないですね。釣れている人に素直に聞きにいけるかどうかっていう話にも繋がってくると思います…。



◀昨年12月の追加取材時、
江成の原稿を真剣な眼差
しでチェックする北城氏

江・ドボンについてのお話は、今までほとんど記事になっていないと思うんです。僕も何となくこのイメージだけで自己流ドボンはやりますが、全然ノウハウつてものがない。ぜひ北城流ドボンを公開して頂きたいですね！

北・公開も何も、俺のオリジナルな所なんてほとんどないよ。全て先輩方に教わってきた事だからね。それに一般的なトーナメントシーンでドボンはまず必要ないでしよう？ 管理釣り場の釣りがもてはやされている今、ドボンの記事が少ないので必然だと思うよ。ただ単に江成君の個人的な興味だけで誌面を無駄にする事はないと思うけど…。

江・何をおっしゃいますか！ 釣りはみんな繋がっている」って言つたのは北城さんですよ！ 僕の個人的興味はもちろん否定しませんが、テーマを底釣りと決めた時からドボンは絶対に漏らしたくなかったんですよ。というのも、あまりにもドボンの記事が少なくて、まるで「別世界の釣り」のような感じで扱われているケースが多いと感じていたからです。悪く言えばバカにされているわけですよ。これは同じへら釣りであるのに不當な差別です。

ドボンで僕の記憶にある記事は、横山天水さんと、石坂和彦さんの記事くらいでしようか。当時は夢中で読みました。実際、ドボンが圧倒的に強いケースって野釣りではよくあるのに、ドボンで釣られても皆平気な顔してますよね。「ドボン？」それなら仕方ないね」って感じで。そういう例会の度、僕は実は教えてもらいたかったんです。でもそういう雰囲気の中で勇気が持てなかつた…。釣れないより釣れた方がいいに決まつてるんですから、平気な顔している人もホントはやせ我慢なんじゃないかと思うんですね。ところがあまりにも情報が少ないので、みんなやりたくてもよく分からぬ。これがバカにするという裏返しで現れてくるんじゃないかな



と。中にはノウハウを持っている人もいる筈なんですが、こういう雰囲気の中では言い出しにくいという悪循環だと思います。北・確かにそうかもしれないね…。そこまで言うならドボンの地位向上のためにひと肌脱ぐかな（笑）。

江・そう来なくっちゃ！ 実は北城さんをお呼びしたのも、そんなつもりじゃないですよ。ただ北・何だよ。俺はそのためだけに呼ばれたのかな（笑）。

江・そ、そんなつもりじゃないです。ただ北城さんのキヤツチフレーズにひとつ新しいのが加わるかなと思って。「ドボンの北城」、「ドボンなら北城に聞け！」、「北城ドボン！」なんてはどうでしよう？

北・俺、池に落っこちやうの…。

江・いやその（汗）…うまく言えないんですけどドボンを詳細に語るという機会が、きっとたくさんいるドボンの名手の中で北城さんに初めて与えられるという事は名誉ではないか、なんちゃつて…。

北・冗談だよ（笑）、確かに、俺はドボンは好きだよ。ただ、俺は別に名前なんてどうでもいいの。この歳まで夢中で釣りをさせてもらつてきて、周りに犠牲になつた人がたくさんいるからさ（笑）。そもそも恩返しもしないと。こんなおじさんでも誰かの役に立つというのなら、喜んで喋らせてもらいますよ（笑）。

さて、ドボンといつても細かく分けると色々あるらしいですね。でも中通しと外通しの差はあまりないと聞いてます。道糸がオモリの中で遊動可能となつていても、実際はオモリだと動いてしまうという事なんですね？

北・いやいや中通しと外通しの差は歴然としてあるよ。そりやね、どちらでも重めのオモリの時は仕掛けが完全に「くの字」に折れちゃうから変わらないかもしないけど。それと、セッティングによってはオモリの中を道糸が動く場合もあるよ。江成君の言つてるのは、中通しと重めのオモリベタの事でしよう？ ちょっと混同してるようだね。どうせ道糸はオモリの中を

動かないという前提ならば、板オモリでも構わないんだけどさ。ちなみに江成君はどんな時にどんなドボンをやるのかな？

江・バランスでやつていて風で仕掛けが振り込めない時とか、流れがキツくなつた時ですかね。それで、ウキをそれまで使つていたものよりひとまわり小さいサイズに換えます。即席ドボンというやつですかね（笑）。もともとギリギリ竿いっぱいで底釣りをしていたら、斜めになる分の道糸がないので出来ないですけど。僕はわりといい思いしてますヨ。

北・やっぱりオモリベタの事だったか。うん、仕掛けの張りを考えるとセッティング的にはひとまわり小さいサイズでちょうどいいと思う。もちろんドボンに換える前のセッティングがちゃんとしてないと何とも言えない事ではあるけどね。まあ、このくらいのバランスが「普通」のドボンだとしておこうか。「ひとまわり」つてところからしてもかなり曖昧な基準だけどさ（笑）。他のドボン体験は？

江・最近は行つてませんけど、多摩川本流のかなり上流で、2号とか3号のナス型オモリで釣つたこともあります。ウキの代わりに、道糸の穂先ギリギリの所に目盛りを刻んだリリアンを付けるんです。結局流れは止められませんけどね。かなり面白かったです。ミヤク釣りだからすぐ穂先に来ちゃうかと思えばそうでもなくて。これってナス型オモリなんぞ外通じやないですか？ ナツメだと道糸が擦れて切れやすいやうな気がするんです。ウレタンチューブなどをましても、すぐズレちゃうんですよ。

北・それじゃ、中通しと外通しの差は理解出来ていない苦だよなあ（笑）。ゴメン、笑っちゃいけないね（笑）。いや江成君もさ、意外に豪快な釣りもするんだなあと思ってね。だけど、その大きなオモリの釣りが、まさに「ドボーン！」の由来（笑）。

江・はあ…。さつきから気になつてるんですけどドボンでの「くの字」って何でしようか？ 北・え？ オモリが底についているつてことは、そこからハリスは寝るわけでしょ？ タナ取りの話の時に言つた「くの字」とは比べ物に

ならないくらい折れてるでしょ。

江：あ、そうですね。

北：江成君はドボンについて少し整理しておかないといけないみたいだね。とりあえず江成君がよくやる「即席ドボン」と「正式な（？）ドボン」に分けておこうか（笑）。

江成君の「即席ドボン」はさつきも言つたけど、「重めのオモリベタ」。いわゆるオモリベタからすれば、かなり重めだね。「正式なドボン」はまず、オモリの形態の違いで「中通」と「外通」とに分けられる。それぞれオモリの量によつても分けられる。オモリの量は、落下スピードとアタリ・サワリの出方に関係くるね。オモリの量によつて、「普通のドボン」と「軽めのドボン」とか「バランスオモリを付けるタイプのドボン」と呼ばれるパターンに分けられるんだ。といっても完全底釣りのように広く議論されている釣り方ではないから、呼び名については人それれかもしれない（笑）。

あとはアタリを取るタイミングでも分けられるかな。例えはクワセにオカメを使った段差の

ドボンなんてのがあるけど、早いアタリが出る場合があるよね。オモリが「トーン」と底に着いたと思うたらもう食い上げてきちゃつたり、消し込んだり。これはどう考えても田で食つてゐるでしょ。オカメのついた長い下ハリスがそのタイミングで底に着くはずがないんだからね。仕掛けが軽めだろうが普通だろうがオカ

メドボンはもう「底いら辺釣り」と言えるね。リズムを作るために「トーン」を利用してるだけ。オカメじゃなくても早いタイミングでアタリが出るドボンも、「底いら辺釣り」と言えるんじゃないかな。

これと関連した話だけど、上つ調子で釣りづらい時にドボンだと釣りが簡単になるケースもあるよ。つまり「トーン」という意味で強制的なリズムが、自動的にタナを作ること（ウズリ対策）になるというわけだ。俺はやらないけどね。だってウキから読み取れる情報量は、当然普通のバランスの底釣りの方が多いんだから。ナジんだ後にアタリを取る場合は、やっぱりハリスが寝る釣りという事になるんでしばしばなる。普通のバランスの底釣りでズラし過ぎても同じだけど、ハリスが寝てるって事はスレアタリの大きさが軽減されて食いアタリのよう見えるって事だからね。もっともその状態での食いアタリは本当はもっと小さいんだろうけどさ。だからドボンは、一般的にスレもありの野釣り用テクニックという事になるかな。

江：本当に色々あるんですね。風や流れ対策という位置付けじゃないって事が良く分かりました。「アタるタイミングによっては底いら辺釣りだ」なんて、僕の質問を見越した説明でありがとうござります（笑）。でもやっぱり特殊な釣りというイメージが消えないですねえ。他に

メリットはないでしょうか？

北：同じ長さの竿ならば、隣の人より冲めを狙えるって事かな。トップの出具合を調整するの道糸の角度以外にないんだから、毎回一定にしては振り切らになる訳だ。これは別の見方では道糸の角度以外にないんだから、毎回一定にすれば、自分だけポイントに届くって事にもなる。魚道とかカケアガリとかにね。

江：なるほど、野釣りでバランスより釣れるケースはこれが理由なんでしょうかね。

北：それだけじゃないと思うよ。「トップがやっと沈没するくらいの超・軽めのドボン」の存在が、沖打ちという理由だけじゃドボンの効果を説明出来ないって事を証明しちゃうから（笑）。ちなみにこんなセッティングの時は、馬鹿正直に目一杯振り切る必要はないよ。無駄。

江：うーん確かにそういうセッティングでは、大して沖打ちにはならないでしょ。からねえ。もつたいぶらずに教えて下さいよ。

北：ハリスが底に寝るという状態は、釣り人にとつてはアタリを読むには困るけど、へらにしてもれば最高に食いやすい状態なんじゃなかつたつけ？

江：あ、それそれ！ きっとそれですよ！ 流れがあるわけでもないのでドボンじゃないとアタリが出ないケースって、ズバリこれじゃないですか？

北：可能性は高いね。究極のエサ安定論という

わけだ。バランスの底釣りでのオモリベタでもエサを安定させる効果はあるけど、それ以上にエサを安定させる事が出来る。ドボンはウキの浮力よりも大きいオモリを使うわけだから、底での「据わり」は抜群なんだね。振り込みから考えても、一定の位置に落としやすいし。

あと、さつきは強制的なリズムと言つたけど、バランスの底釣りと比べたらナジミ込みのストロークは半分でしょ？ オモリが底に着いてからが自由落下だからね。タナの凝縮効果は絶大なんだ。もちろん、へらが追つてくれればという話だけ。

江：いや、本当にいろんな角度から分析してますねえ。でもやっぱり、北城さんが言った「スレが多い」というのがネックなんですね。僕が最初に言った「実際はオモリだと動いてしまう」という話はどうなんでしょう？ これつて結局、食つた瞬間をどうえられない事からアタリと食いアタリの区別が付けられるんでしようか？

（次号へ続く）

迫っていく。絶対に見逃さないように！（里）

次号では、いよいよドボンの核心部分へと

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへあ鮒会 2. ぐりへら鮒会 3. ぐりへら鮒会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴 舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300錠で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）

03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）

044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）

03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）

044-711-8266

鮎仙人（神奈川県川崎市）

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

<http://www.office27.com>
E-mail:info@office27.com

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

へら
鮒

へら
鮒

へら
鮒

Monthly fishing magazine herabuna

No.448
Apr.2003 4

特集

2ヶ月連続特集。年に一度のお祭りがもうすぐ来る!!

関東乗込み場大集合 PART I

佐原水郷・手賀沼・道仙田を中心に34カ所一挙公開！

特集Ⅱ

Club 50

50歳に賭けた夢を熱く語る。
そして、印旛新川での実釣編では…

発足スペシャル。

関東初の巨ベラネットワーク集団より5人の夢追い人が登場。大いに語り、大いに釣る！

岡田 浩/及川健一/栗田幸一/町田武州男/高橋 修



春を先取る…
野釣り大応援号!!

きた!! キタアーッ!!

待望の乗込みシーズン、到来。そろそろか?いよいよか?
仕事中でも、食事中でも、お風呂に入っているときでも、
メル友ならぬ、釣友からの連報が気になります。↑
間近に迫った「春のお楽しみ」。あなたの準備はOKですか。



乗っ込みといえばマッシュ系。
その感覚をグルテンエサに!

厳選した良質なマッシュを活かしたグルテンエサです。ボソッとしたタッチが大型を誘い、
マッシュのヌケのよさで集魚効果が抜群。吸い込みやすさとハリ持ちにも優れています。

●新ベラグルテン ¥550 ●新ベラグルテン底 ¥600

マルキュー

<http://www.marukyu.com/>

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL: (048) 728-0909 (代) FAX: (048) 728-3909
大阪支店 大阪府寝屋川市楠根南町12-14 TEL: (072) 824-0909 (代) FAX: (072) 825-0909

四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 TEL: (0877) 44-0909 (代) FAX: (0877) 44-3909
九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 TEL: (0942) 82-0909 (代) FAX: (0942) 83-0909

